

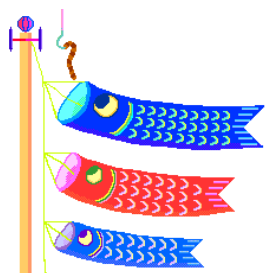


「春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山」

持統天皇

百人一首の中にあるあまりにも有名な和歌ですね。みなさんもお存知の方も多いのではないでしょうか。

5月になり、新学期が始まって一か月が過ぎました。子どもたちは新しい学校、新しい友達や先生にも慣れたころでしょうか。元気に登校している姿を見ます。これからも勉強や運動、人間関係など様々な体験をとおしてどんどん成長して欲しいものですね。



## 子育ての心得

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」

という言葉、皆さんも聞かれた方も多いでしょう。部下を持つ上司の心得としても有名な言葉ですね。そして、この言葉には次のような続きがあります。

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」

と続きます（連合艦隊司令官、山本五十六さんの言葉）。この言葉は、上司としての心得としてだけでなく、子育てにも通ずるものではないでしょうか。

幼少期は、親は子どもがやっていることに対して、「大丈夫だろうか」「危なくはないだろうか」等、不安に感じ、つい口を出したり、手を出したりすることが多いものです。これではいつまでたっても子どもは自立できません。子どもが取り組んでいる時には、失敗しそうであっても手を出さず、信頼して見守ってやるのが大切です。たとえ失敗であっても、子どもは、失敗からたくさんものを学び、次にはそれを生かすことができるようになるものです。親が手を出すことは、子どもが自立していくチャンスを逃すことにつながります。失敗して、泣いてきたらしっかりと受け止めてやるようにしましょう。そして「次はできるよ」と、励ましの声をかけてやるようにしましょう。そうすれば子どもは、次もやってみようという気持ちが芽生えてくることにより、頑張るようになります。

反抗期にある子どもに対しては、どのようにすればよいのでしょうか。子どもは、得てして親や大人の言葉に対して耳をふさぎ、聞こうとしない傾向があります（本当は聞いているのですが・・・）。そこで親が干渉すると子どもはかえって反発をします。親や大人は、子どもが取り組んでいることに対し、信頼して任せること、そして、子どもが相談してきたときには耳を傾け、話を聞いてやり、「やってみてごらん」と認めてやるのが大切です。そのことにより、親が自分のことを自立した一人の人間として認めてくれたことで自信を持って物事に取り組むことができるようになるのです。そして、できたときにはしっかりとほめてやることでますます意欲的に取り組むようになるでしょう。

子どもにとって親や大人から、「見守ってもらえる」「信頼して任せてもらえる」「聞いてもらえる」「認められる」「ほめられる」ことは心地よく、そのことによりいろいろなことに積極的に取り組むことができるようになるのです。山本五十六さんのこの言葉からは学ぶことはたくさんあるようです。